

(農)熊本すぎかみ農場 熊本県熊本市

基本情報

- ・ 気候：九州西南暖地
- ・ 土質：壤土
- ・ 従事人数：6名
(オペレータ：3名)

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	117.8ha	30a
飼料用米(移植)	10.4ha	30a
麦類	220.6ha	—
大豆	95.3ha	—

※H27作付計画面積

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- ・ 経営面積242haのスケールメリットを活かした、効率的な営農体制を構築することで、生産体制の強化を目指す
- ・ ほ場条件等は、30a区画(前作：小麦)、品種「あきまさり」、「森のくまさん」、登熟期まで灌水可能
- ・ 米、麦、大豆のブロックローテーションにより水田利用率向上、農産物のブランド化や地域と連携した食農教育等に取り組む

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- ・ 肥料(移植)
育苗箱に基肥を投入する「育苗箱全量施肥技術」を導入し、施肥効率の向上による減肥とともに、移植時の施肥省略による労働力削減

※ただし、窒素が多く必要となる飼料用米等多収性専用品種の場合、肥料が育苗箱に入りきらないため、不足分を堆肥や追肥で補う必要がある

- ・ 育苗(移植)
疎植栽培(13.3株/m²・慣行：18株/m²)に取り組んだ結果、使用育苗箱数を7箱/10a削減

導入効果

- ・ 施肥、育苗

物材費 ▲約5%

労働時間 ▲約7%

(慣行：本田施肥、18株/m²移植との比較)

支援体制

- ・ 県が指定する低コストパイロット地区において、これまでに設立された6つの広域農場の1つ
- ・ 低コスト生産体制の構築に向けて、作付の団地化や機械の整理統合、新技術の導入等を行うため、JA、市、普及組織で構成されるプロジェクトチームを設置し、総合的な支援を実施

課題・今後の目標

- ・ 育苗箱への施肥量は限度があり、過度な疎植は、収量が減少
- ・ 当該技術は取組初期であり、定着については今後検討が必要。
- ・ コスト低減に向けて、多収生産の取組等の技術を実践



大型機械による収穫風景